

今月のテーマ 虫刺され



夏が終わったと油断していたら、知らない間に虫や蚊に刺されている事も多いです。現代は酷暑と呼ばれるほど気温が上昇し、そんな気温の中で蚊などは動けず死んでしまう事も多く、実は夏よりも秋の方が活発に活動します。

虫刺されとは

赤い発疹、痒み、痛みなどの炎症症状が現れ、虫がもつ特有の毒性成分や唾液に含まれる成分が私達の皮膚に注入され生じるアレルギー反応です。



虫に刺されたら

- ① 蚊 …………… 汗かきの人や体温の高い人を好み、呼気(CO₂)に反応するので飲酒や運動の後には刺されやすくなります。掻きむしると肌が傷つき細菌が入りやすく、「とびひ」の原因になるので乳幼児は注意が必要です。秋の蚊に刺された方が夏と比べ痒みも強く、腫れやすいとも言われています。近年、蚊を媒介としたデング熱やジカ熱も問題になっています。



注 デング熱

デングウイルスを持った蚊に刺された事により蚊から人へと感染します。今のところ予防ワクチンもなく、高熱・発疹・頭痛などの症状があり潜伏期間は3～7日間、長くて14日とされています。

注 ジカ熱

いまだ不明な点が多いとされていますが、ジカウイルスを持った蚊に刺された事により感染します。デング熱よりは症状は穏やかとされていますが近年、妊婦の感染には注意が必要とも言われています。

- ② ダニ …………… 脇腹や太ももの内側など皮膚の柔らかい部分を刺し、半日～1日後くらいに赤い発疹と強い痒みが現れます。ハウスダストの原因にもなり、マダニは山など野外に多く、発熱・嘔吐・下痢などの症状もです。すぐに医療機関に受診するようにしましょう。



- ③ ムカデ …… 症状としては激痛が走り、しびれが生じます。ムカデの毒は熱に弱いとされています。43度以上の熱いお湯に患部を20分間ほど浸けるのも効果的とされていますが、症状が改善しない場合は医療機関に受診する事をお勧めします。



- ④ 蜂 …………… 2回目に刺された場合は、アナフィラキシーショックを起こす可能性があるため早めに医療機関に受診する事をお勧めします。特にスズメバチの場合は、急いで受診するようにしましょう。



痒みが出ている時は

1時間程度で治る痒みには…

抗ヒスタミン剤配合の内服薬や外用剤（貼り薬・塗り薬）

数時間～数日、いつまでも続く痒みや炎症には…

ステロイド含有の内服薬や外用剤を使用

人間の感覚は「痒い」より「熱い」「冷たい」を優先して感じるので、我慢できない強い痒みの時は、掻く前に保冷剤などを使って冷やすのが効果的です。ステロイド含有の外用剤は使用方法を守れば安全で有効な薬です。自己判断せず、必ず医師の指示を守ってください。

予防方法

外出時は肌の露出を控え、長袖・長ズボンなど衣服にも注意しましょう。草むらに入る時は、ズボンを裾を閉じるなどの対策を取りましょう。虫除けスプレーなど虫除けグッズを効果的に使用するのも良いでしょう。乳幼児にはスプレーではなく、塗るタイプを使用するなど配慮が必要です。室内は小まめに掃除をし、湿度を50～55%に保ち、虫を寄せ付けない、又は繁殖させない環境を心掛けましょう。蚊は水たまり、草木が生い茂る場所に生息するので、水たまりを排除し、不要な草木は刈るなど発生源を絶つようにしましょう。

肌の露出は少なく！

長袖・長ズボンで
ハチの好む黒、マダニの好む白を
避けましょう



ズボンの裾を
靴下にIN

ウエストもズボンに
INが好ましい

お薬や介護についてわからないことや、気がかりなことがありましたら、
お気軽にお尋ねください。

担当 みやこ薬局マツヤスーパー店

***** みやこ薬局 *****

本店・山科店・薬大前店・マツヤスーパー店・北山店・紫竹店
大宮店・みやこケアプランセンター（北山店横）

<http://www.miyako-ph.co.jp>